

安位寺殿御自記 二十一

古文書

一九五九
三八三號

内閣文庫	
番號	和 20909
冊數	82 (21)
函號	古 19 359

安位寺殿御自記



21
,
/

二一九三 共八十一

寶徳二年

要抄

経覽



21
2

Fragment of a handwritten document on aged, stained paper. The text is written in a cursive style, likely Japanese or Chinese characters, and is partially obscured by damage and ink bleed-through from the reverse side. The paper is heavily discolored and has irregular, torn edges. The writing is dense and difficult to decipher due to the condition of the document.

24
3

Fragment of an ancient document with handwritten text in a cursive script, possibly Japanese. The paper is heavily stained and torn. The text is mostly illegible due to damage and fading. Some characters are visible, including what appears to be '23' in the center and '24' on the right edge.

24
3

Handwritten text in a cursive script on aged, torn paper. The text is arranged in approximately seven vertical columns, reading from right to left. The characters are dark ink on a light brown, fibrous paper background. The script is highly stylized and difficult to decipher. In the top right corner, there is a small handwritten number '21' above a '4'.

21
4



因陽子子前 弟所下所湯茶

四一移去二移回

一書

本行三西

三日成津

一池

遠國君使

一池 湯茶

一池

一池

一池

一池

一池

月極日遊望

美々作は舟あせ

伊勢の江船

川田流上る流舟

江流

舟

舟あせ

川田流上る流舟

伊勢の江船

舟あせ
川田流上る流舟
伊勢の江船

舟あせ
川田流上る流舟

舟あせ

川田流上る流舟

伊勢の江船

舟

川田流上る流舟

伊勢の江船

舟あせ

川田流上る流舟

伊勢の江船

舟あせ

舟

市原庄... 諸君... 相見... 家... 様...

月... 日... 何... 御...

立... 日... 御... 様... 御... 様...

方... 退... 相...

御... 様... 御... 様... 御... 様...

己... 巳...

大... 普... 院... 御... 様...

御... 様... 御... 様... 御... 様...

御... 様... 御... 様... 御... 様...

いふに三つありてありては
中木と云ふ
人志は世に云ふは
人志は世に云ふは
仙向親方と云ふは

三末
心志
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは

一部方由事
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは

廿七日
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは

中々入る事
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは
仙向親方と云ふは

此方ありし書中の... 入道公等
し言成し都立之... 務被... 裁由...
多し... 細... 用... 由...

永

此方ありし書中の... 務被... 裁由...

二回

此方ありし書中の...

海國天下の... 普里... 奉... 入... 者... 等... 初...

十一朝... 存... 存... 存...

名

市... 一... 行... 備... 中...

此方ありし書中の... 務被... 裁由...

白己申
自今口入所定多の指例可申
深毛澤人恒例の指例事令
自今口入所定多の指例可申
自今口入所定多の指例可申

此所和延書一之
甲申格本有延書
自今口入所定多の指例可申
自今口入所定多の指例可申

七日壬午
同日壬午
同日壬午
同日壬午

九日甲申
十日乙酉
十一日丙戌
十二日丁亥

白己申
自今口入所定多の指例可申
自今口入所定多の指例可申

一 諸君の御覧の如く、
一 諸君の御覧の如く、
一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

一 諸君の御覧の如く、

酉三辰

心は水以下官之を造るが如し

道其の内心の境を詩書に依りて

大雅語自心作ると其の

道其の内心の境を詩書に依りて

道其の内心の境を詩書に依りて

十日

一

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

心は水以下官之を造るが如し

日未

事未備也... 方以... 向古... 清... 及

止回中

一... 一... 一... 一... 一...

一軍... 務...

廿二日... 廿...

百代...

... 中... 州...

日中書

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

中目度子

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

一、此の書は、
長官の御筆に
ありて、

後この方ぬりたる是也

一初より中なる詮矣之程法師 美舟

明言法師 宣考 是是地 是は行善なるを

めとすはしむるは限可らずとす

ふとすはしむるは限可らずとす

一法師より又法師なるは神清実なるは

之友なるは是也 是は是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

六

其の目録也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

一法師の古事の下是也 是は是也

三十一と云ふ事

打白は年々の湯水と云ふ事

又白精と云ふ事

精と云ふ事

中と云ふ事

廿日と云ふ事

伊和と云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

之をたけしと云ふ事

この書は... 大市... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...

七日... 札

七日... 札... 申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...



申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...

二日

二日... 申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...
申上... 御座... 奉行... 申上... 御座...

日丙辰

主事後州左の如女書一御中の方印を

すは兼上人の主地印の御印を

御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印の御印を御印の御印を御印の御印を

御印

同前あり
今更なる人 横乃七人 してりしをいふ
本信申す 別をいふに申す 申す 申す

一 田田は来る事ありと申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

十八日壬戌并 一 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

夫自三礼并 一 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

九日甲子
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す
申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す 申す

中付以下全興向於金おれを体所下中より
 中市和印下中精念所五倍ソ右の十中を
 持持重中入共して主天しを勝者として中一上書
 三右より又元三中人の中をし形者重計の
 大命候事入調して十十右に由去中事し是
 中事(者事)中事十中事十中事十中事
 中事十中事十中事十中事十中事

音之七種

一 旬海國之元今討治之為利海
 一 万太子海の地おまて之風向か
 二 見地おれして中の中かかか力向か
 一 万太子海の地おまて之風向か
 二 見地おれして中の中かかか力向か

中付以下全興向於金おれを体所下中より
 中市和印下中精念所五倍ソ右の十中を
 持持重中入共して主天しを勝者として中一上書
 三右より又元三中人の中をし形者重計の
 大命候事入調して十十右に由去中事し是
 中事(者事)中事十中事十中事十中事
 中事十中事十中事十中事十中事

音之八種

一 万太子海の地おまて之風向か
 二 見地おれして中の中かかか力向か
 一 万太子海の地おまて之風向か
 二 見地おれして中の中かかか力向か

田丁卯并
三言七言刻
由是古希
但初田の行師
乃得少益
をねむる

是日辰酉

地蔵文上の御
一或は清云
於飛

一或は清云
於飛

地蔵文上の御
一或は清云
於飛

一或は清云
於飛

土佛行かせ

文由るま

おめお柄の

お一書院

おめお柄の

お一書院

おめお柄の

お一書院

おめお柄の

お一書院

おめお柄の

お一書院

おめお柄の

お一書院

四月水

向し家系

海防万務を急ぐ
舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交

舟同之を今討治と前

海防万務を急ぐ

舟同之を今討治と前

舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交
舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交

舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交
舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交

舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交
舟同之を今討治と前
大身管迄堂入交

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

三日... 三日... 三日... 三日... 三日...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

四... 四... 四... 四... 四...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

此所見... 此所見... 此所見... 此所見... 此所見...

徳川 十一

入籍と名をいふ事ありては、
一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

世に心通すにふしむる一物も圓柳
金万連
自是亦も三言後
注次印す二改二

辛卯三月

白雲本三草湯治此とる水端
此節のぬ下男見友拒古市播州を良歌
系人かこけり男小相付は向以西り人をも
御守ノ西成氣急ニ白接志りる名半りの
中見し三陰中り書ハ中六方世子
病氣も二静澄七好市ノ且友市ノ終や
亦致

共

十八日壬辰五拜

長光寺汁果の久新初る竹言を種への信寺以果
ツ方よれ
一ツもはらふ市外目之し高防信之入請と徳水
候了二并金所備也し書重品下種とま訪
中

此のころ

七言已所

堅方事あり
等作付り

辛卯三月
植柳令
由近房之良とる以梧桐本是之
所是おけ師ノ下中し下向きのゆありし以後下
一行し又吾是初布り種上けしより

Handwritten text on the right edge of the top page, including a date "21 43" and a signature.

Handwritten text in the upper right section of the top page.

Handwritten text in the middle right section of the top page.

Handwritten text in the lower right section of the top page.

Handwritten text in the middle left section of the top page.

Handwritten text in the lower left section of the top page.

四十一止

Handwritten text in the upper left section of the top page.

Handwritten text in the lower left section of the top page.

21
,
44

Fragment of a handwritten document on aged, yellowed paper with significant damage and tears. The text is written in cursive Japanese calligraphy (sōsho). Legible characters include:

勘
方
金
...

Handwritten text in a cursive script on aged, torn paper. The text is arranged in approximately seven vertical columns, reading from right to left. The characters are dark ink on a light brown, fibrous paper background. The script is highly stylized and difficult to decipher, but appears to be a form of historical Japanese calligraphy.

仲亮吉翔

清景記

草書

松離之

織也

...

...

...

...

...

...

...

21
45
止

紙
教
四
十
三
枚

